

拠出金名:国際開発教育・研究機関拠出金

国際機関等名	アジア工科大学院 (英文名称・略称) Asian Institute of Technology (AIT)				
種別	国連(事務局)	国連(基金・計画)	国連専門機関	その他	
所管官庁担当局課名	外務省国際協力局国別開発協力第一課				
最近3年間の我が国支払額及びODA率					
単位	邦貨 (千円)	外貨1 (千ドル)	外貨2 (千)	レート	ODA率(%)
平成22年度	8,662	92		1米ドル = 94円	100
平成21年度	9,784	95		1米ドル = 103円	100
平成20年度	10,734	95		1米ドル = 113円	100
当該拠出金の目的・用途等	奨学金、ジェンダーと開発学科運営費				
拠出上位5ヶ国・地域・機関等 (2010年のもの)				国際機関等の財政 (2010年度決算、千タイバーツ)	
	国名	金額 (千ドル)	拠出率(注) (%)	当該年度の収入	1,028,643,029
1位	タイ	68,174	13.2	当該年度の支出	1,011,472,574
2位	スウェーデン	49,792	9.6	次年度への繰越	17,170,455
3位	カナダ	24,358	4.7	会計検査機関名	
4位	インド	16,917	3.3	KPMG	
5位	ノルウェー	15,120	2.9		
日本は6位、2.9%					
当該機関等に対する我が国としての評価 (合理化、機能強化のための改革が行われているか、当該機関等の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)					
AITは2012年1月に新憲章が発効し国際機関化する予定であり、東南アジア地域における人材育成・研究活動はますます拡充されると見込まれる。それに伴い、新しい財源の開拓、事務局の能力向上・合理化などを精力的に行っている。AITの活用は、我が国援助の重点政策である南南協力の拠点としても有用であり、また、AITでは日本人教官が数名教鞭をとっていること、我が国からの奨学金が親日感情向上に繋がることから、我が国との関係でも「日本の顔が見える」国際機関であると評価できる。					
邦人職員数 うち幹部以上	常勤2名、非常勤2名 うち 0 人		当該機関全体の職員数 及び邦人職員が占める率	130名(常勤・非常勤教官数) 3.1%	
邦人職員が占めている幹部ポスト					
ポストの名称		職員氏名		備考	
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画					
現時点では予定なし。					

(注) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年となっている。